

下水道事業会計

1 事業の実績

(1) 業務概括

本年度は、未普及地域における污水管渠布設事業が行われたほか、整備による汚水処理量の増加に対応するため、中央浄化センター及び田主丸浄化センターの増設事業の着手などの建設改良工事が実施された。

また、施設の耐震化や長寿命化を図るための機械設備の更新が行われた。

さらに、平成30年7月豪雨により被災した中央浄化センターの沈砂池及びポンプ棟機械設備の災害復旧工事に着手した。

施設及び業務実績は、次表のとおりである。

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	増減数	増減率(%)
行政区域内人口 (人) A	304,703	305,581	△878	△0.3
処理区域内人口 (人) B	251,242	246,698	4,544	1.8
水洗化済人口 (人) C	226,272	222,715	3,557	1.6
普及率 (%) B/A	82.5	80.7	1.8	
水洗化率 (%) C/B	90.1	90.3	△0.2	
全体計画面積 (ha) D	6,480	6,480	0	0
処理区域面積 (ha) E	5,142	5,036	106	2.1
面積普及率 (%) E/D	79.4	77.7	1.7	
管渠総延長 (km)	1,283	1,251	32	2.6
職員数 (人)	52	52	0	0
※()内は短時間勤務職員数で外数	(7)	(5)	(2)	
現有処理能力 (m ³ /日) F	103,900	103,900	0	0
平均処理水量 (m ³ /日) G	69,085	69,495	△410	△0.6
現在最大処理水量 (m ³ /日)	94,493	86,208	8,285	9.6
施設利用率 (%) G/F	66.5	66.9	△0.4	

(2) 処理人口及び普及率等の主な増減の内容

処理区域内人口は、毎年度増加を続け、本年度も前年度に比べて増加して、4,544人(1.8%)の伸びとなっている。

処理区域面積は、市全体の計画面積6,480haに対して5,142haで、前年度より106ha(2.1%)増加している。

普及率は、処理区域内人口の増加により、前年度より1.8ポイント上昇して82.5%、処理区域面積普及率は、前年度より1.7ポイント上昇して79.4%である。

管渠総延長は、前年度に比べ32km(2.6%)増加して1,283kmとなっている。

施設利用率は、施設の持つ処理能力がどの程度利用されているかを示すものである。本年度は、前年度から0.4ポイント低下して66.5%となっている。低下した理由は、汚水処理水量の減少に

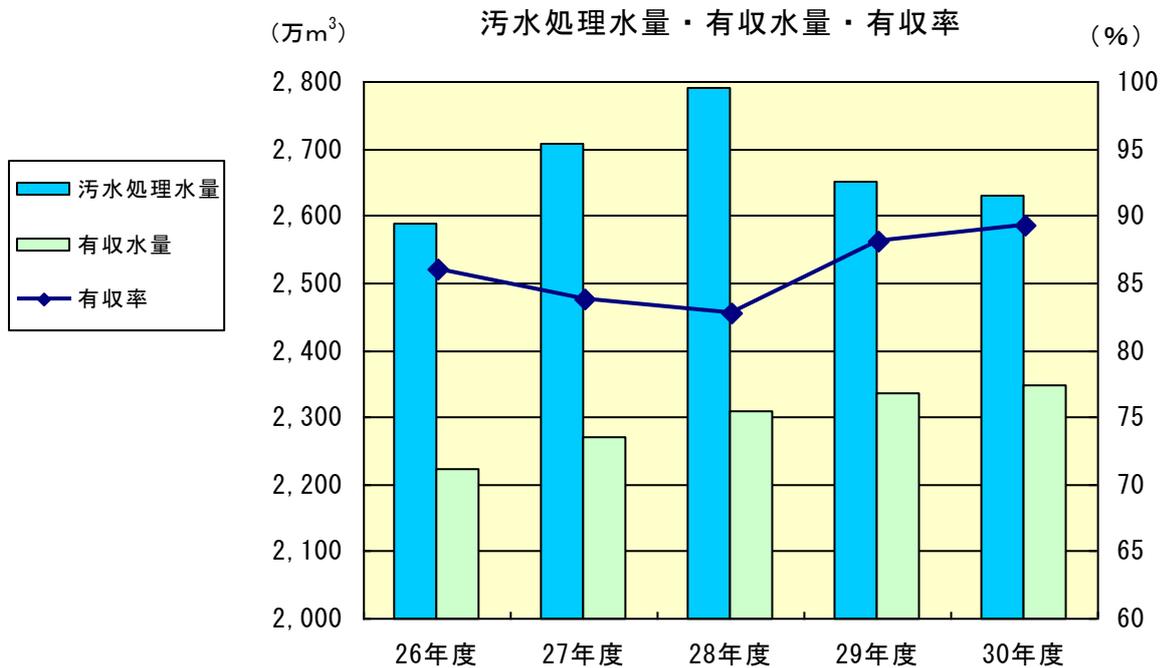
に伴い、平均処理水量が減少したことである。

(3) 汚水処理水量、有収水量及び有収率の主な増減の内容

汚水処理水量は、前年度と比較すると、205,117 m³の減となっている。その主な要因は、管路の補修により不明水の流入が減少し、無収水量が減少したことである。

有収水量は前年度より 123,075 m³増加しており、有収率は、1.2 ポイント上昇して 89.3%となっている。

なお、年間汚水処理水量、有収水量及び有収率の推移は、次表のとおりである。



(単位：m³・%)

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
汚水処理水量 A	25,876,031	27,086,923	27,916,589	26,514,312	26,309,195
有収水量 B	22,244,821	22,711,492	23,100,180	23,368,659	23,491,734
無収水量	3,631,210	4,375,431	4,816,409	3,145,653	2,817,461
有 収 率 B/A	86.0	83.8	82.7	88.1	89.3